

第2段落における浩の心理の変化と行動の流れを——「後悔」⇨「羨望」⇨「牽制され、負けていく」⇨「見せかけの没頭」⇨「コンプレックス」——ととらえた場合、「見せかけの没頭」は本文のどの部分に当たるか。過不足なく抜き出さない。

《その2》

第2段落における浩の心理の変化と行動の流れを——「後悔」⇨（「 」）⇨「牽制され、負けていく」⇨「見せかけの没頭」⇨「コンプレックス」——ととらえた場合、（「 」）の中に入るべき語句を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|--------|--------|--------|
| (ア) 周到 | (イ) 浪費 | (ウ) 羨望 |
| (エ) 我慢 | (オ) 自信 | |

《その3》

第2段落における浩の心理の変化と行動の流れに従って、次の四項目を順に並べかえなさい。

- (1) 見せかけの没頭 (2) 後悔
(3) 牽制され、負けていく (4) 羨望

(3) 評価問題作成上の配慮事項

- ①目標分析の過程で精選された学習目標、行動目標にそって作問し、指導の結果としての到達度評価が可能であること。
- ②その設問によって、生徒のどのような能力を、どのようなレベルで見ようとしているのかを明確にすること。
- ③学習目標、行動目標について、それぞれ複数の評価問題を作成することが望ましい。
- ④作問に当たっては、一つの設問が一つの目標に対応するように作ることを原則とするが、いろいろな知識・技能を総合的に見たい場合はこの限りではない。
- ⑤作問の形式、内容が偏らないように、「出題のねらい一覧表」などのマトリックスを作成して、作問の領域、難易度などのバランスを図るとよい。（下掲の図3参照）

図3 《評価問題》 出題のねらい一覧表

領域	表	現	理	解							言語事項					設問・解答形式					難易									
				a	b	c	d	e	f	g	h	i	a	b	c	d	e	f	g	h		i								
大問番号	小問番号	出題のねらい	学習指導要領との関連	構想・叙述・主題	学習指導要領との関連	語句の意味	内容探求・説明	心理・情景描写	表現・文体の特色	指示語・接続語	構成・展開	要点・要約	主題・要旨	鑑賞	学習指導要領との関連	文法	語彙	漢字	表記・敬語	国語常識(含文学史)	記述法	単純再生法	完成法	序列法	訂正法	真偽法	多肢選択法	組み合わせ法	選択完成法	A・B・C
	1																													
	2																													
	3																													
	4																													
	5																													
	6																													

3. おわりに

高等学校の国語科について、「評価のありかた」と「目標分析を通しての評価問題作成」について述べてきたが、生徒の多様化による指導法の改善が急務とされる現在、「教育評価」についての基本を押さえておくことは大切なことと思われる。

現行の学習指導要領は、指導及び評価について分析的にきめ細かに示しているが、この考えかた

をベースに置いたうえで、自己教育力や個性の伸長に結びつく新しい評価のありかたを今後考えていく必要があろう。

※ 参考文献

- ・高等学校学習指導要領解説国語編（文部省）
- ・月刊国語教育（東京法令出版）
- ・現代教育評価論（梶田毅一著 金子書房）